

IETF (Internet Engineering Task Force)

1.組織の概要

IETF (Internet Engineering Task Force) は、インターネットプロトコルを定めるための標準化団体である。IETFには、メンバーとか参加資格に関する規定はなく、IETFの多数あるメールリングリストや、年3回開催される誰でも参加できるミーティングへの参加者によって構成されている。ミーティングには、毎回数百人の参加者があり、日本からの参加も増えつつある。

IETFは、Applications、Internet、IPng、Network Management、Operational Req.、Routing、Security、Transport、User Servicesの9つのエリアに分類された多数のWG (ワーキンググループ) から構成され、各WGには、議長がいる。各エリアには、エリアディレクターが1人か2人おり、エリア内のWGの生成消滅などを管理する。

2.活動内容

各WGの役割は、インターネットプロトコルを構成する個々のプロトコルを開発、評価、実装することである。WGは、プロトコル開発の必要に応じて生成される。開発初期のプロトコルは、「Internet Draft」というRFC*より気楽に出版できる文書として公開されるのが普通である。Internet Draftは、だれでも気楽に登録でき、6か月で消去されるが、通常はその前に次の版が公開される。プロトコル仕様が一応の完成をみると、その文書は「Proposed Standard」となり、「Standard Track RFC」として出版される。多くの場合、この時点でWGの役割は終了し、WGは消滅する。

RFCの中でも、「Standard Track RFC」は重要なものであるが、逆にすべてのRFCがStandard Track RFCというわけではなく、各WGや個人が、プロトコル記述ではなく、単にインターネットコミュニティに何らかの情報を提供するための目的で、「Informational RFC」を書くことができる。また、実験的なプロトコルは、「Experimental RFC」として出版される。

3.意思決定のプロセス

IETFには誰でも参加できるため、票決という制度はなく、Working CodeとRough Consensusにもとづいた意思決定が行われる。動くインプリメンテーションが存在して、みんながだいたい満足すればいいことになっている。実際にはこの判断はWGの議長が行うため、議長の権限は大きい。

年3回のミーティングのうち2回は米国、1回は米国外で行われることになっているが、ここ2年は、米国外といってもカナダである。また、議論は英語で行われる。一応の国際性はあるが、かなり米国中心の組織である。

(太田昌孝)

RFC

Request for Commentの略。インターネットに関するプロトコルや提案標準、技術情報を記載した文書のこと。

<http://www.ietf.cnri.reston.va.us/>

Protocol	Name	Status	RFC	STD*
	Internet Official Protocol Standards	Req	1720	1
	Assigned Numbers	Req	1700	2
	Host Requirements - Communications	Req	1122	3
	Host Requirements - Applications	Req	1123	3
	Gateway Requirements	Req	1009	4
IP	Internet Protocol	Req	791	5
	as amended by:-----			
	IP Subnet Extension	Req	950	5
	IP Broadcast Datagrams	Req	919	5
	IP Broadcast Datagrams with Subnets	Req	922	5
ICMP	Internet Control Message Protocol	Req	792	5
IGMP	Internet Group Multicast Protocol	Rec	1112	5
UDP	User Datagram Protocol	Rec	768	6
TCP	Transmission Control Protocol	Rec	793	7
TELNET	Telnet Protocol	Rec	854,855	8
FTP	File Transfer Protocol	Rec	959	9
SMTP	Simple Mail Transfer Protocol	Rec	821	10
MAIL	Format of Electronic Mail Messages	Rec	822	11
CONTENT	Content Type Header Field	Rec	1049	11
NTPV2	Network Time Protocol (Version 2)	Rec	1119	12
DOMAIN	Domain Name System	Rec	1034,1035	13
DNS-MX	Mail Routing and the Domain System	Rec	974	14
SNMP	Simple Network Management Protocol	Rec	1157	15
SMI	Structure of Management Information	Rec	1155	16
Concise-MIB	Concise MIB Definitions	Rec	1212	16
MIB-II	Management Information Base-II	Rec	1213	17
NETBIOS	NetBIOS Service Protocols	Ele	1001,1002	19
ECHO	Echo Protocol	Rec	862	20
DISCARD	Discard Protocol	Ele	863	21
CHARGEN	Character Generator Protocol	Ele	864	22
QUOTE	Quote of the Day Protocol	Ele	865	23
USERS	Active Users Protocol	Ele	866	24
DAYTIME	Daytime Protocol	Ele	867	25
TIME	Time Server Protocol	Ele	868	26
TFTP	Trivial File Transfer Protocol	Ele	1350	33
RIP	Routing Information Protocol	Ele	1058	34
TP-TCP	ISO Transport Service on top of the TCP	Ele	1006	35
ETHER-MIB	Ethernet MIB	Ele	1643	50*
PPP	Point-to-Point Protocol (PPP)	Ele	1661	51*
PPP-HDLC	PPP in HDLC Framing	Ele	1662	51*

[Note: an asterisk at the end of a line indicates a change from the previous edition of this document.]

表1 インターネットの標準プロトコル一覧 ([RFC 1720]より)

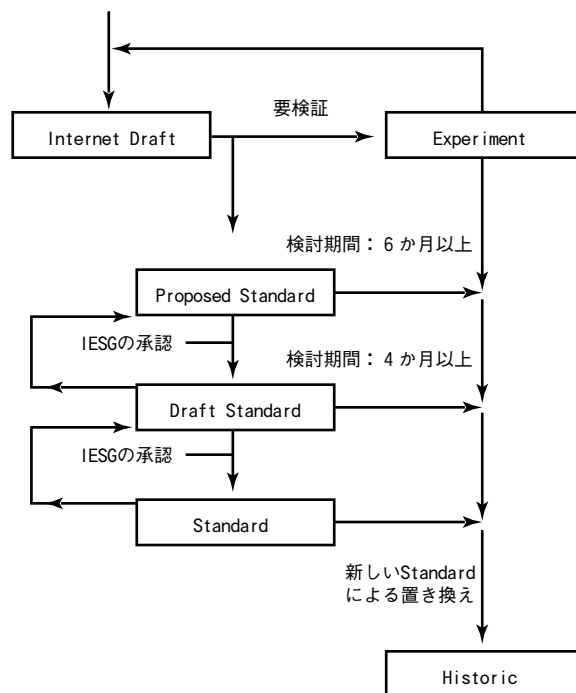


図1 インターネット標準の成熟段階



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp